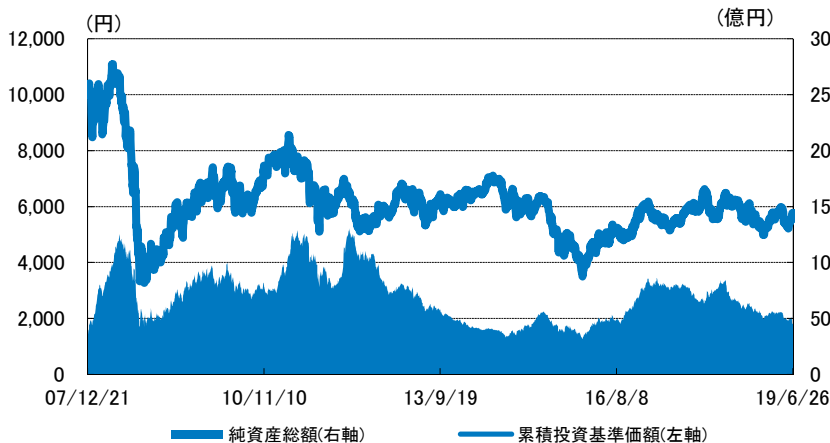


## ブラックロック天然資源株ファンド

追加型投信／海外／株式

### 累積投資基準価額および純資産総額の推移



※累積投資基準価額は信託報酬除後の値です。信託報酬については、後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

※累積投資基準価額は税引前分配金を再投資したものととして算出しています。

### 税引前分配金

分配金累計額		700円			
第35期	2016年8月22日	0円	第41期	2018年2月20日	0円
第36期	2016年11月21日	0円	第42期	2018年5月21日	0円
第37期	2017年2月20日	0円	第43期	2018年8月20日	0円
第38期	2017年5月22日	0円	第44期	2018年11月20日	0円
第39期	2017年8月21日	0円	第45期	2019年2月20日	0円
第40期	2017年11月20日	0円	第46期	2019年5月20日	0円

### ファンドのパフォーマンス(%)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
<b>基準価額</b>	9.91	0.09	14.16	-4.71	18.47	-15.32	-42.36
BGF ワールド・エネルギー・ファンド(US\$)	5.47	-0.36	16.77	-13.45	5.21	-34.33	-30.62
BGF ワールド・マイニング・ファンド(US\$)	13.21	3.00	18.28	4.04	46.46	-7.47	-44.67
BGF ワールド・ゴールド・ファンド(US\$)	21.33	11.29	22.11	16.64	-11.35	4.44	-19.91
<b>米ドル円</b>	-1.44	-2.88	-2.89	-2.49	4.74	6.34	-4.65

※基準価額の騰落率は、税引前分配金を再投資したものととして算出した累積投資基準価額により計算しています。

※BGF ワールド・エネルギー・ファンド、BGF ワールド・マイニング・ファンド、BGF ワールド・ゴールド・ファンドの騰落率は、各ファンドの米ドルベースの一口当たり純資産価格で計算しています。

※米ドル円の騰落率は、三菱UFJ銀行が発表する公示仲値を使用しています。

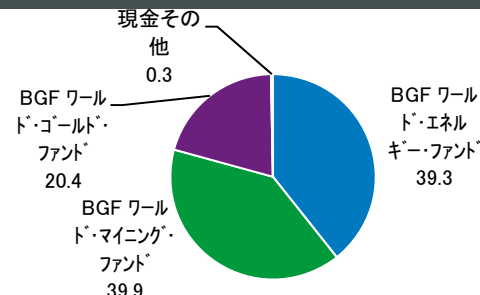
### ファンドの目的・特色

- 信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行います。
- 世界が注目する資源株(エネルギー関連株、鉱山株および金鉱株)に実質的に投資します。
- ファンド・オブ・ファンズ形式による運用を行いません。
- 外貨建資産については原則として為替ヘッジは行いません。
- 原則として、年4回の毎決算時において収益配分方針に基づき、分配します。

### ファンドデータ

基準価額	5,400円
純資産総額	45.03億円
ファンド設定日	2007年12月21日

### 資産構成比率(%)



※比率は対純資産総額。四捨五入の関係で合計が100にならない場合があります。

### ご参考- 現地月末、合算

国・地域	比率	通貨	比率
米国	33%	米ドル	37%
カナダ	23%	カナダ・ドル	23%
英国	23%	英ポンド	22%
オーストラリア	10%	豪ドル	10%
フランス	3%	ユーロ	5%
その他	6%	その他	3%
現金等	3%		

※投資対象ファンドの各国・地域別比率および各通貨別比率と資産構成比率を基に計算し合算したものです。四捨五入の関係で合計が100にならない場合があります。

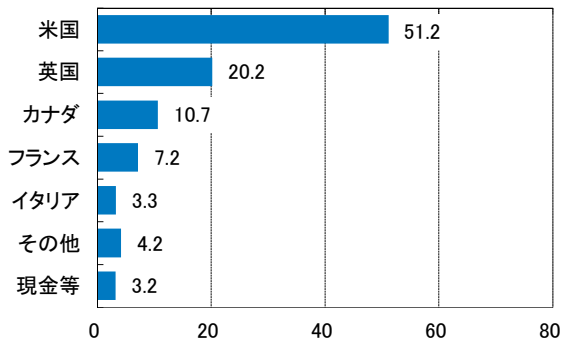
※国・地域の区分方法は各投資対象ファンドにより異なります。各投資対象ファンドの国別比率を合算しているため、表示されている国・地域が重複して記載される場合があります。

※通貨別比率の「その他」に含まれる通貨は各投資対象ファンドにより異なります。各投資対象ファンドの上位組入通貨を合算しているため、表示されている個別通貨が「その他」に含まれる場合があります。

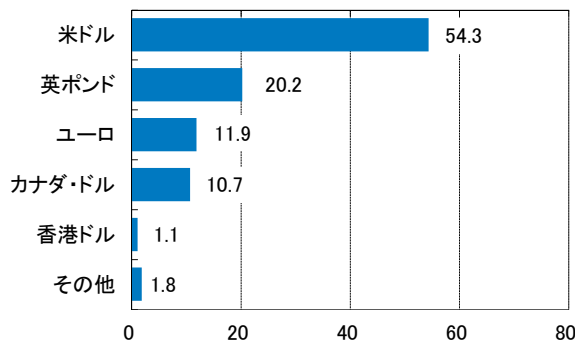
本資料は、当ファンドの理解を深めていただく為の情報提供を目的として、ブラックロック・ジャパン株式会社が作成したものです。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等については当社が保証するものではありません。運用実績・データ等は作成日現在および過去のものであり今後の運用成果を保証するものではありません。本資料に記載された市況やポートフォリオの見通し等は、作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。本資料に記載された基準価額は信託報酬を控除した後の価額、分配金は課税前の金額を使用しております。投資信託は株式・公社債等の値動きのある証券(外貨建ての場合は為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は変動します。従って元本が保証されているものではありません。ファンドに生じた損益は全て投資家の皆様に帰属いたします。投資信託のお申込みに際しましては、必ず最新の投資信託説明書(交付目録見書)等の内容をご確認の上お客様ご自身でご判断ください。投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金の対象にはなりません。

BGF ワールド・エネルギー・ファンド

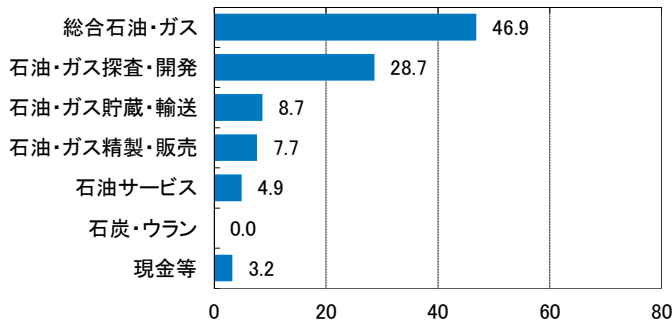
国別比率(%) \*



通貨別比率(%) \*



業種別比率(%) \*



組入上位10銘柄(%) \*

銘柄名	比率
1 ロイヤル・ダッチ／シェル	9.8
2 BP	9.5
3 トタル	7.2
4 エクソンモービル	6.1
5 コノコ・フィリップス	5.1
6 シェブロン	4.7
7 EOGリソースズ	4.5
8 ウィリアムズ・カンパニーズ	4.4
9 TCエナジー	4.3
10 マラソン・ペトロリアム	3.9

\* 比率はBGF ワールド・エネルギー・ファンドの純資産総額に対する割合

運用担当者のコメント

1. 市場環境

原油価格は、ホルムズ海峡でタンカー2隻が攻撃を受けたことや米無人偵察機がイランに撃墜されたことから米イラン間の軍事的緊張が高まったこと、米国の原油在庫が減少したことなどを背景に、上昇しました。エネルギー関連株は、原油価格が上昇するなか上昇しました。

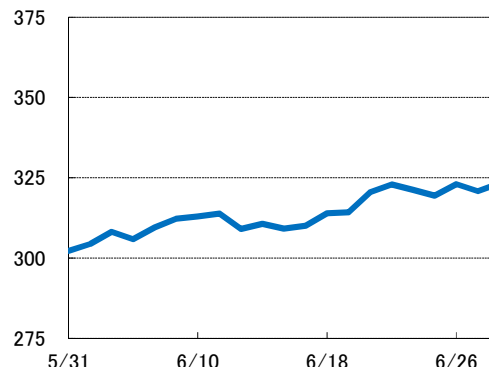
2. 運用経過

米国のペンシルバニア州フィラデルフィアにある製油所で大火災が発生したことを受けて米国の石油精製商品の需給が逼迫するなか、バレル・エナジー、マラソン・ペトロリアムが相対的に良好なパフォーマンスとなったことがプラス要因となりました。一方で、米国の天然ガス価格が供給増の影響を受けて下落するなか、EQTが相対的に低調なパフォーマンスとなったことがマイナス要因となりました。主な投資行動としては、石油・ガス探査・開発関連銘柄を一部売却した一方で、総合石油・ガス関連銘柄を購入しました。

3. 市場の見通しおよび今後の運用方針

原油の供給サイドについては、OPECは原油価格を支援するために引き続き高い水準での協調減産を継続すると見えています。2019年の米国のシェールオイルの供給は、パイプラインの不足が解消され増加すると思われませんが、大幅な増加は予想していません。現在、米国の石油・ガス探査・開発企業は、生産増加による成長よりも財務規律を維持し、株主重視の姿勢をより高めています。従って、過剰な設備投資が抑えられ、原油供給の増加も抑えられと見えています。また、非OPEC加盟国地域では原油生産の設備投資が抑えられてきていることも原油供給の増加を抑える要因になると見えています。足下、エネルギー関連株は、原油価格の悲観的な見通しを過度に織り込んでいると考えています。今後、原油価格が1バレル当たり60ドルを維持した場合、エネルギー関連株に対する信認が高まり再度注目されると考えています。我々は、質の高い資産を有し、良好な財務状況を有すると判断される銘柄を選別しつつ運用を行なう方針です。

<MSCIワールド・エネルギー・インデックス>



(現地日付、米ドルベース)

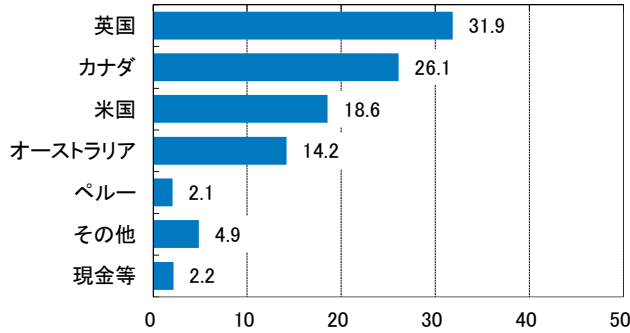
※ MSCIワールド・エネルギー・インデックスとは、MSCI Inc. が開発、計算した株式指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

※「3. 市場の見通しおよび今後の運用方針」については、本資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。また将来について保証するものではありません。

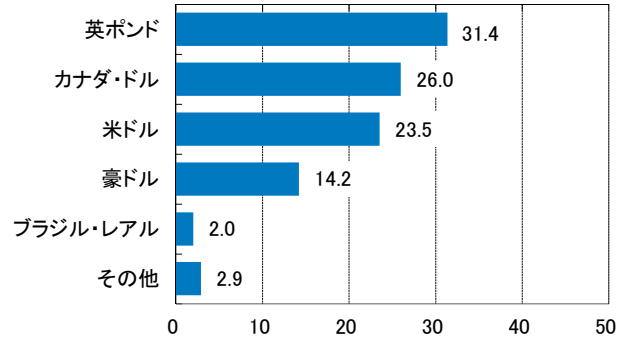
本資料は、当ファンドの理解を深めいただく為の情報提供を目的として、ブラックロック・ジャパン株式会社が作成したものです。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等については当社が保証するものではありません。運用実績・データ等は作成日現在および過去のものであり今後の運用成果を保証するものではありません。本資料に記載された市況やポートフォリオの見直し等は、作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。本資料に記載された基準価額は信託報酬を控除した後の価額、分配金は課税前の金額を使用しております。投資信託は株式・公社債等の値動きのある証券(外貨建ての場合は為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は変動します。従って元本が保証されているものではありません。ファンドに生じた損益は全て投資家の皆様に帰属いたします。投資信託のお申込みに際しましては、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容をご確認の上お客様ご自身でご判断ください。投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金の対象にはなりません。

BGF ワールド・マイニング・ファンド

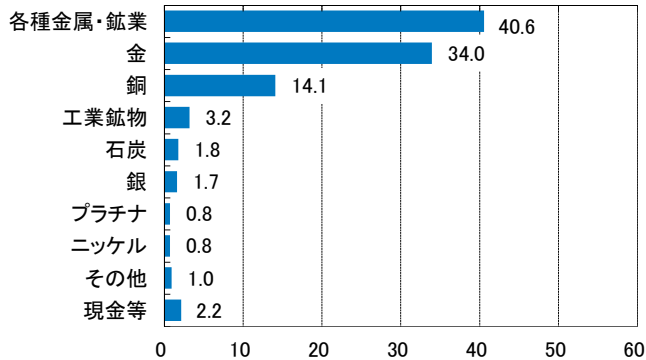
国別比率(%)\*



通貨別比率(%)\*



業種別比率(%)\*



組入上位10銘柄(%)\*

銘柄名	比率
1 BHPグループ	9.3
2 リオ・テイント	8.9
3 ヴァーレ	7.5
4 アングロ・アメリカン	5.4
5 テック・リソーシズ	4.8
6 ニューモント・ゴールドコープ	4.8
7 バリック・ゴールド	4.7
8 アグニコ・イーグル・マインズ	4.4
9 グレンコア	3.7
10 フランコーネバダ	3.1

\* 比率はBGF ワールド・マイニング・ファンドの純資産総額に対する割合

運用担当者のコメント

1. 市場環境

鉄鉱石価格は、需給が逼迫していることを背景に大幅に上昇しました。金価格は、米国の利下げ観測が高まるなか金利を生まない金に対する需要が高まったことや米ドルが軟化したことに加えて、地政学的リスクの高まりから信用リスクのない「安全な資産」としての需要が高まったことなどを背景に、上昇しました。鉱山関連株は、商品価格が堅調な動きを見せるなか、上昇しました。

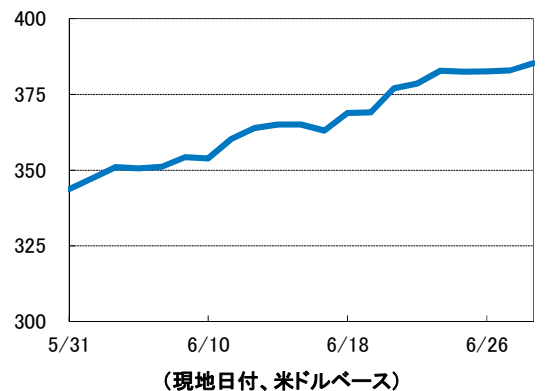
2. 運用経過

銅価格が上昇したことなどを背景に、ERO Copper、ファースト・クワンタム・ミネラルズ、アイバンホー・マインズ、ルンディン・マイニングが相対的に良好なパフォーマンスとなったことがプラス要因となりました。主な投資行動としては、ESG(環境・社会・ガバナンス)に対するリスク上昇懸念などからグレンコアを一部売却しました。一方で、利益確定のため銅関連株銘柄を一部売却し、また、トレバリ・マイニングを売却しました。

3. 市場の見通しおよび今後の運用方針

足下、鉱山関連企業は、財務状況が力強い内容となり、厳格な投資規律を維持し、高い水準のフリーキャッシュフローを生み出しており、バリュエーションに魅力があると考えています。米中の貿易戦争を巡る不透明感が高まるなか、今後1年から1年半は世界経済の成長は減速するものの、プラスの成長を見せられると思われれます。鉱山企業の財務状況は改善を見せており、また、配当の支払いなど株主重視の姿勢を見せており、鉱山関連株に魅力的な投資機会があると考えています。そして、年内の鉱物価格は安定的に上昇する可能性があると考えています。鉱物需要については、中国からの需要が急激に冷え込むといったハードランディング的なシナリオは想定していません。供給については、これまで、鉱山関連企業は設備投資を削減してきていることから、現在多くの鉱物の需給環境は良好で、今後も継続すると見えています。我々は、企業の財務状況、所有鉱山の質、市場動向などを注視し慎重に銘柄選択などを行なう方針です。

<EMIX グローバル・マイニング・インデックス>



※ ユーロマネー・グローバル・マイニング・インデックスは、EMIX グローバル・マイニング・インデックスに名称変更されました。  
 ※ EMIX グローバル・マイニング・インデックスとは、世界の金属・鉱物採取関連企業で構成される株価指数です。

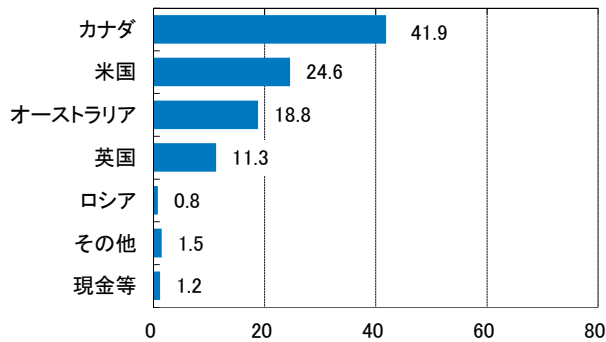
※「3. 市場の見通しおよび今後の運用方針」については、本資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。また将来について保証するものではありません。

本資料は、当ファンドの理解を深めていただく為の情報提供を目的として、ブラックロック・ジャパン株式会社が作成したものです。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等については当社が保証するものではありません。運用実績・データ等は作成日現在および過去のものであり今後の運用成果を保証するものではありません。本資料に記載された市況やポートフォリオの見通し等は、作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。本資料に記載された基準価額は信託報酬を控除した後の価額、分配金は課税前の金額を使用しております。投資信託は株式・公社債等の値動きのある証券(外貨建ての場合は為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は変動します。従って元本が保証されているものではありません。ファンドに生じた損益は全て投資家の皆様に帰属いたします。投資信託のお申込みに際しましては、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容をご確認の上お客様ご自身でご判断ください。投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金の対象にはなりません。

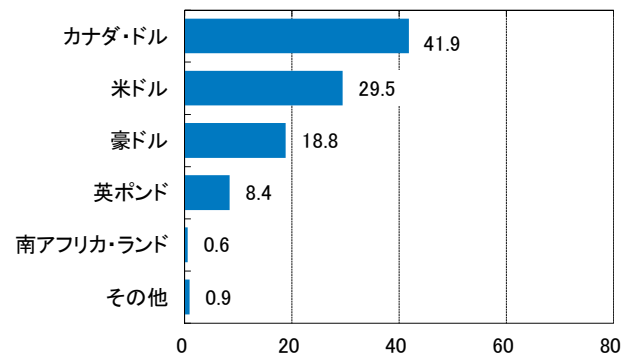


BGF ワールド・ゴールド・ファンド

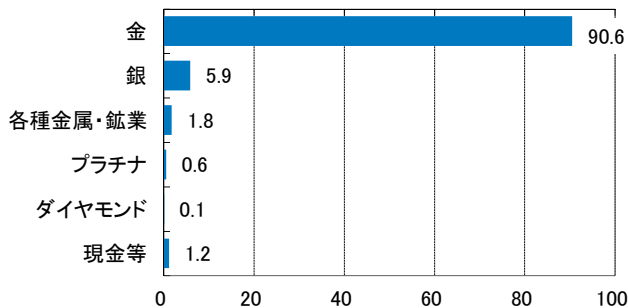
国別比率(%)\*



通貨別比率(%)\*



業種別比率(%)\*



組入上位10銘柄(%)\*

銘柄名	比率
1 バリック・ゴールド	9.6
2 ニュークレスト・マイニング	9.2
3 アグニコ・イーグル・マインズ	8.7
4 ニューモント・ゴールドコープ	8.1
5 ノーザンスター・リソーシズ	4.9
6 ウィートン・プレシャス・メタルズ	4.6
7 フランコ・ネバダ	4.2
8 アラモス・ゴールド	3.8
9 フレスニーヨ	3.7
10 B2ゴールド	3.6

\* 比率はBGF ワールド・ゴールド・ファンドの純資産総額に対する割合

運用担当者のコメント

1. 市場環境

当月、金価格は、米国の利下げ観測が高まるなか金利を生まない金に対する需要が高まったこと、米・イラン間での軍事的な緊張が高まるなか信用リスクのない「安全な資産」としての需要が高まったことなどを背景に、上昇しました。金鉱株は、金価格の上昇を受けて上昇しました。

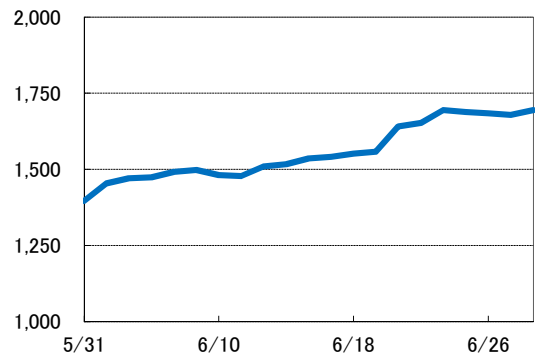
2. 運用経過

金のロイヤルティ事業を行っているフランコ・ネバダやウィートン・プレシャス・メタルズが相対的に低調なパフォーマンスとなったことがマイナス要因となりました。また、相対的に良好なパフォーマンスを見せたバリック・ゴールドの組入れを低位としていたこともマイナス要因となりました。一方で、センタミン、アラモス・ゴールドが相対的に良好なパフォーマンスとなったことがプラス要因となりました。主な投資行動としては、金のロイヤルティ事業を行っている銘柄を一部売却した一方で、ゴールド・フィールズを買い増しました。

3. 市場の見通しおよび今後の運用方針

足下、株式市場が不安定な動きを見せるなか、金や金鉱株は分散投資といった観点から有効な資産クラスであると考えています。世界経済の先行き見通しは不透明感が増してきており、政治的緊張や保護主義はしばらく続くのではないかと見ています。このような環境下において、金は信用リスクのない「安全な資産」として注目を集めています。今後1年から1年半は、金価格は概ね現在の水準の範囲で推移するのではないかと考えられます。米国の金利見通しは、ここ半年で大きく変化しました。ETFなどを通じた金に対する投資需要は引き続き底堅く、短期的に、投資需要の動向が金価格を左右する大きな要因のひとつになると考えています。長期的には、アジア地域からの需要が増し、金鉱山の新たな開発が限定的になると予想され、金の供給に影響が出ると考えられることなどが金価格にとって支援材料になると見ています。当ファンドでは、引き続き鉱山の質が高く、生産コストが低く、比較的良好な財務状況を有する銘柄を中心に組入れを行なっていく方針です。また、長期的にリターンを追求する観点から、経営陣が株主の利益を優先する企業も引き続き組入れに際して重視する方針です。

<FTSE 金鉱業株インデックス>



(現地日付、米ドルベース)

※ FTSE金鉱業株インデックスとは、金鉱業を主な事業とする企業の株式の世界市場でのパフォーマンスを評価します。FTSEの指数(インデックス)は、いずれもFTSEの商標であり、そのあらゆる権利はFTSE及び/又は、その許諾者に帰属します。すべての情報は、参考のために提供されるだけです。FTSEは、FTSEの指数又はその基礎データのいかなる誤りもしくは欠陥等に関して一切責任を負うものではありません。

※「3. 市場の見通しおよび今後の運用方針」については、本資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。また将来について保証するものではありません。

本資料は、当ファンドの理解を深めていただく為の情報提供を目的として、ブラックロック・ジャパン株式会社が作成したものです。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等については当社が保証するものではありません。運用実績・データ等は作成日現在および過去のものであり今後の運用成果を保証するものではありません。本資料に記載された市況やポートフォリオの見通し等は、作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。本資料に記載された基準価額は信託報酬を控除した後の価額、分配金は課税前の金額を使用しております。投資信託は株式・公社債等の値動きのある証券(外貨建ての場合は為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は変動します。従って元本が保証されているものではありません。ファンドに生じた損益は全て投資家の皆様に帰属いたします。投資信託のお申込みに際しましては、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容をご確認の上お客様ご自身でご判断ください。投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金の対象にはなりません。

## 委託会社

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第375号

一般社団法人 投資信託協会会員／一般社団法人 日本投資顧問業協会会員／日本証券業協会会員／

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会会員

## 投資信託説明書(交付目論見書)のお問い合わせ、ご請求

販売会社にご請求ください。

※以下の表は原則基準日時点で委託会社が知りうる限りの情報を基に作成したのですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第24号	○	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○	
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第110号	○			
ばんせい証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第148号	○	○		
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレーPB証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第180号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第199号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第36号	○			
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第43号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
株式会社横浜銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第36号	○		○	
株式会社三井住友銀行 (インターネット・モバイル専用)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○		○	
株式会社京都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社東邦銀行	* 登録金融機関	東北財務局長(登金)第7号	○			
株式会社山陰合同銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第1号	○			
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	

\*印の販売会社では、新規お申込みを受付けておりません。

本資料は、当ファンドの理解を深めていただく為の情報提供を目的として、ブラックロック・ジャパン株式会社が作成したものです。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等については当社が保証するものではありません。運用実績・データ等は作成日現在および過去のものであり今後の運用成果を保証するものではありません。本資料に記載された市況やポートフォリオの見通し等は、作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。本資料に記載された基準価額は信託報酬を控除した後の価額、分配金は課税前の金額を使用しております。投資信託は株式・公社債等の値動きのある証券(外貨建ての場合は為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は変動します。従って元本が保証されているものではありません。ファンドに生じた損益は全て投資家の皆様に帰属いたします。投資信託のお申込みに際しましては、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容をご確認の上お客様ご自身でご判断ください。投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金の対象にはなりません。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組入れられている有価証券の値動きの他、為替変動による影響を受けます。これらの信託財産の運用により生じた損益はすべて投資者の皆様には帰属します。したがって、当ファンドは元金および元金からの収益の確保が保証されているものではなく、基準価額の下落により投資者は損失を被り、元金を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。当ファンドにかかる主なリスクは以下の通りです。

#### ■ エネルギー関連株、鉱山株および金鉱株投資のリスク

当ファンドの投資対象ファンドは、世界各国のエネルギー資源の採掘・開発等を行なう企業の株式および鉱物資源・金の採掘・精練等を行なう企業の株式を主要投資対象とします。したがって、エネルギー需要の変動や鉱物資源・金の市場動向および組入株式の発行会社の経営・財務状況等に応じて組入株式の株価および配当金の変動し、当ファンドの運用成果に影響を与えます。

#### ■ 特定業種への投資のリスク

当ファンドの投資対象ファンドは、エネルギー資源や貴金属・一般非鉄金属(銅、アルミ、ニッケル、錫、亜鉛、鉛等)の採掘・精練等を行なう企業の株式を主要投資対象とします。資源企業という特定業種への集中投資を行なうため、より広い業種に分散して投資する場合と比較して特定業種の動向の影響を大きく受け、結果として基準価額の値動きが大きくなる可能性があります。

#### ■ 為替変動リスク

当ファンドの基準価額は円建てで表示されます。一方、当ファンドは外貨建ての投資信託証券に投資を行ない、当該投資信託証券に対して為替ヘッジを行ないません。また、当ファンドが投資する投資信託証券は、外貨建資産に投資を行ないません。したがって、為替レートの変動が当ファンドの運用成果に影響を与えます。

#### ■ 中小型株式投資のリスク

当ファンドの投資対象ファンドは、株式市場平均に比べ株式時価総額の小さな企業の株式にも投資することができます。これらの企業の株式への投資は、株式市場の全体の平均に比べて結果としてより大きな値上がりもしくは値下がりとなる可能性があります。これは比較的規模の小さい企業は大規模の企業に比べ収益の変動が大きくなる傾向があることに加え、株式市場における需給関係の変動の影響を受けやすいためです。

#### ■ カントリー・リスク

当ファンドの投資対象ファンドは、エマージング(新興)市場の発行体が発行する株式にも投資します。エマージング諸国の経済は、先進諸国に比べて不安定であり、その株式市場を取り巻く社会的・経済的環境はより不透明な場合が多く、エマージング諸国の政府は自国経済を規制または監督する上で大きな影響力を行使することがあります。したがって、主として先進国市場に投資する場合に比べて、投資先の国の政治・経済事情、通貨・資本規制等の要因により、より大幅に株価が変動することが考えられ、それに伴い当ファンドの運用成果に影響を与えます。

#### ■ デリバティブ取引のリスク

当ファンドの投資対象ファンドは、先物・オプション取引などのデリバティブ取引を用いることができます。このような投資手法は現物資産への投資に代わって運用の効率を高めるため、または証券価格、市場金利、為替等の変動による影響から投資対象ファンドを守るために用いられます。デリバティブ取引を用いた結果、コストとリスクが伴い、当ファンドの運用成果に影響を与えます。また、デリバティブ取引は必ず用いられるわけではなく、用いられたとしても本来の目的を達成できる保証はありません。

### その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

## リスクの管理体制

委託会社ではリスク管理を重視しており、独自開発のシステムを用いてリスク管理を行っております。具体的には、運用担当部門とは異なる部門においてファンドの投資リスクの計測・分析、投資制限のモニタリングなどを行なうことにより、ファンドの投資リスクが運用方針に合致していることを確認し、その結果を運用担当部門にフィードバックするほか、社内の関係者で共有しております。また、委託会社の業務に関するリスクについて社内規程を定めて管理を行っております。

## 収益分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。したがって、分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者の個別元本の状況によっては、分配金の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本のことで、投資者毎に異なります。



## 手続・手数料等

### お申込みメモ

購入単位	分配金の受取方法により、一般コースと累積投資コースの2つのコースがあります。取扱いを行なうコースおよび購入単位は、各販売会社により異なります。詳細は販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	換金単位は、各販売会社により異なります。詳細は販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	換金代金は原則として、換金受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	午後3時までに受付けたものを当日のお申込みとします。ただし、受付時間は販売会社により異なることがあります。詳細は販売会社にお問い合わせください。
換金制限	大口の換金の申込には制限があります。詳細は販売会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付不可日	ルクセンブルグの銀行の休業日、12月24日、その他投資対象ファンドの受付不可日のいずれかに該当する場合は、販売会社の営業日であっても購入・換金は受け付けません。
購入・換金申込受付の中止および取消	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の受付を中止・取消する場合があります。
信託期間	無期限(設定日:2007年12月21日)
繰上償還	当ファンドは換金により受益権の口数が30億口を下回るようになった場合、または投資者のため有利と認められる場合、その他やむを得ない事情が発生したとき等には、信託期間の途中でも信託を終了(繰上償還)させる場合があります。
決算日	2月20日、5月20日、8月20日、11月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に収益分配方針に基づき分配します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 累積投資コースを選択された場合の収益分配金は、税引き後自動的に無手数料で再投資されます。
信託金の限度額	信託金の限度額は、5,000億円とします。
公告	投資者に対してする公告は、電子公告により次のアドレスに掲載します。 <a href="http://www.blackrock.com/jp/">www.blackrock.com/jp/</a>
運用報告書	毎年5月および11月の決算時および償還時に、委託会社が期間中の運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した「交付運用報告書」を作成し、ご購入いただいた販売会社からあらかじめお申し出いただいた方法にて知れている受益者にお届けいたします。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除または益金不算入制度の適用はありません。



## ファンドの費用

### ■ ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		(各費用の詳細)	
購入時手数料	購入受付日の翌営業日の基準価額に3.78%(税抜3.50%)を上限として、販売会社が独自に定める率を乗じて得た額。詳細は販売会社にお問い合わせください。	購入時の商品説明、販売に関する事務手続き等の対価	
信託財産留保額	ありません。	—	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		(各費用の詳細)	
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に対して年1.8684%(税抜1.73%)の率を乗じて得た額 ※運用管理費用(信託報酬)は、日々計上され、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。 ※投資対象ファンドにかかる報酬相当額は、委託会社の信託報酬より支払われます。	運用管理費用(信託報酬)=運用期間中の基準価額×信託報酬率	
	運用管理費用の配分		
	(委託会社)	年0.8640%(税抜0.80%)	ファンドの運用、基準価額の計算、運用報告書等各種書類の作成等の対価
	(販売会社)	年0.9720%(税抜0.90%)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
	(受託会社)	年0.0324%(税抜0.03%)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他の費用・手数料	目論見書の作成費用、運用報告書の作成費用、ファンドの財務諸表監査に関する費用等の諸費用について、ファンドの純資産総額の年0.108%(税抜0.10%)を上限として、日々計上され、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払うことができます。ファンドの諸経費、外貨建資産の保管費用等について、その都度、ファンドから支払われます。また、投資対象ファンドに係る保管報酬および事務処理に要する諸費用が別途投資対象ファンドから支払われます。 ※その他の費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>•ファンドの諸経費: 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息等</li> <li>•外貨建資産の保管費用: 海外における保管銀行等に支払う有価証券の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用</li> </ul>	

※当該手数料および費用等の合計額については、ファンドの保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

※購入時手数料、運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料は、消費税および地方消費税に相当する金額を含みます。